

平成 28 年度 第 2 回静岡市生涯学習推進審議会 会議録

1. 日時 平成 29 年 1 月 6 日（金） 13 時 30 分から 15 時 15 分まで

2. 会場 静岡市役所本館 第三委員会室

3. 出席者

【委員】（13 名）

猿田会長、弓削副会長、柴委員、渋江委員、志田委員、岡村委員、林委員、青島委員、菊川委員、小塩委員、鈴木委員、森委員

【事務局】

海野市民局長、伏見市民局次長、川東生涯学習推進課長、川口参事兼課長補佐、荒木参事兼施設管理係長、島田主幹兼人づくり事業推進係長、降矢経理係長、竹澤主任主事、中島主任主事、大瀧主事

4. 欠席者 3 名（磯山委員、愛野委員、中野委員）

5. 傍聴者 0 名

6. 議事

審議事項 第 1 号 生涯学習推進大綱前期推進計画 進捗管理について

報告事項 第 1 号 生涯学習施設利用に関するアンケートについて

第 2 号 平成 29 年度生涯学習推進課の主要事業について

7. 会議内容

下記のとおり

事務局

< 審議事項 第 1 号について事務局より説明 >

猿田会長

ありがとうございました。ただいまのご質問につきまして、何かご質問、ご意見がございましたら、お願いしたいと思います。

小塩委員

平成 30 年度末の成果指標というところで、シチズンシップが身についた人の割合は何割かという形で評価するということですが、具体的にシチズンシップが身についたとはどのようなところで判断するのでしょうか。

事務局（課長）

人材養成塾につきましては、毎年 6 月に募集をして、今年度は 7 月から 12 月まで実施し

ました。今年度については、12月10日に最終報告会を市長やその他市民の皆さまの前で行い、好評の内に終了しております。この人材養成塾につきましては、毎回アンケートを取っており、特に最終回におきましては塾で学んだこと、身に付いたことを活動に結びつけたかというアンケートを取っております。私どもはたくさんの塾生を輩出しつつ、輩出した塾生が地域や社会のために活動していただくことが大きな目標となっています。そのために、そういう目的を持った意思をアンケートにてその場で確認しまして、それを持ってシチズンシップが身に付いたという判断をさせていただくことになります。シチズンシップにつきましては、ひとりよがりではなく、地域や社会が求めるものを自らの力で発揮して、世のため人のためになる意思をもとに行うものだと考えております。

小塩委員

分かりました。具体的にシチズンシップ活動を実施したということではなく、そういった活動を実施する意思があれば、身に付いたということになる訳ですね。

事務局(課長)

はい、そうです。

猿田会長

ありがとうございます。その他いかがでしょうか。

私から1点確認させていただきますが、資料に例として挙げられているものは生涯学習推進課が所管する事業だと思いますが、127事業の内どの位が他のセクションにお願いをする内容になるのでしょうか。また、毎年度お願いするとなると、結構大変なことだという感じがしますし、実施に際して問題が起きなければという思いがありますけれど、その点いかがでしょうか。

事務局

前回の会議の中でも大綱の前期推進計画を配布させていただきましたが、そちらに出ている所管課名とその数となります。今数字は出ておりませんが、何十課にお願いすることとなります。

課題につきましては、今までは事業を実施したかどうか、何回実施したか、何人集まったかといったような報告だけでしたが、今後は自分たちで実際に評価をしていくこととなりますので、30人集めて講座を開催するような場合、30人集まったらそれで満足してAという評価になったり、成果を厳しく取るような所管課だとアンケートを通じて参加者の成果のところまでBになったりしてしまうことがあるのかなと思います。その辺りで当課が意図した形で評価が出てくるかどうか分からない点が挙げられるかと思います。所管課によって認識の違いや事業レベルの難易度等の違いによっても変わってくると思いますが、ま

ずは自己評価を各課にさせていただきまして、この事業を積極的に実施していただければと思っております。

事務局(課長)

補足させていただきます。事業数については、今確認していますのでお待ちください。

猿田会長がご心配された点についてですが、多くの課が、似たような作業を例年行っております。たとえば、このような主要施策の成果の表については、毎年、市でも各課で各事業に対して自己評価を行っております。今回の様式は若干違いますが、似たような作業を各課で行うこととなりますので、その延長でこのシートにも各課の自己評価を書いていただくことになります。手間とすれば少しは増えますが、それほど大きな手間にはならないと思いますので、やってもらえるものだと、またはやっていただきたいものであると、当課から対象課にお願いをしていくこととなります。

猿田会長

ありがとうございます。数としては大体で結構ですし、分かるようでしたらお願いしたいですが、前回の審議会にて市に出させていただいた意見について、ほぼ全て受け止めていただいて、必要に応じて改善を行っていただきましたことに感謝申し上げたいと思います。また、今ご説明があったように、既に類似した点検評価の仕組みがあって、それを応用活用出来るというようなことかと思っておりますので、より生涯学習推進大綱の進捗管理が可視化されていけば、非常に意義があるのかなと思います。

それでは、その他いかがでしょうか。

事務局(課長)

言い足りないところがあったので補足させていただきます。

今回、この自己評価を生涯学習推進大綱の進捗管理に入れる話だけでなく、先ほども説明させていただきましたとおり、そもそも事務事業の点検を市でも行っていました。その指標の見直しも全庁的に行っているところでございます。これは外部の委員さんからも多大な意見をいただいております。たとえば、当課で言いますと、人材養成塾は今まで修了生数を指標にしておりました。たくさんの修了生数を出すことが次につながると思っております。しかし、外部の委員さんや色々な方の意見の中では、もっとより具体的に効果を図れるもの、あるいは、もっと将来的に目指すものはっきりとした指標にさせるべきだという意見をいただいております。本市の中でも全庁的に見直し作業を行っている最中でありますので、それに合わせてこの進捗管理の表も枠を増やして各課の自己評価を書いていただくとともに、評価の目標を全庁的に見直ししている評価項目に合わせて変えていただく、市の大きな流れに合わせて変えていこうとしているところでございます。

猿田会長

ありがとうございます。その他いかがでしょうか。どのようなことでも結構です。今回が今期最後の会議になりますので、是非ご意見をいただきたいと思います。

柴委員

費用対効果を全く言及されておらず、たとえば、人材養成塾も若手とシニアで分けていると思うのですが、この予算だけでも300万と800万と大きな差があるわけですね。受講生の人数はほとんど同じなのに、どうしてシニアにはこのように過重に配分する必要があるのか、その費用に対して効果がどうだったのかを検討していただければ、市民にとっては分かりやすいのではないかなと感じました。

猿田会長

ありがとうございます。このようなシートを作成する意味の一つが、今仰っていただいたような部分についても見える形になるということがあると思います。おそらく最も大事なのが、市民あるいは学習者の実感と評価結果の整合性が合致することだと思いますし、予算額もこういう形で示していただければ、市民感覚に少し合わない部分についても、ご指摘いただけるのかなと思います。いろいろな意味でさらに改善を図りながらこれを使っていく、使える仕組みにしていくことがもっと重要なのかなという風を感じました。その上で、事務局からお答えいただける内容がありましたらお願いします。

事務局(課長)

はい。人材養成塾は2コースありまして、確にかかっている費用が大きく違うのは事実です。地域リーダー養成コースについては平成27年度から新た増設しており、対象者を40歳から60歳までを対象にしております。講座を運営するにあたって一番大変なことは、受講生の指導です。講座では、パソコンやインターネット、SNSなどを駆使しまして、受講生者同士の情報交換等を行っております。しかし、慣れていない方がいると、その方への指導が必要となるため、講座運営の手間が違うということがございます。手間が違うということで、それだけの人工がかかっており、それが現在の費用の差に表れております。ちなみに受けている事業者は、夜12時であっても、受講者からの問い合わせに対応していただいております。相当の努力をしていただいております。今後も費用を含めて講座の在り方を毎回少しずつ見直して、より良い方向に改善していきたいと考えております。

もう一つ補足ですが、特にその年(平成27年度)の差額につきましては、プラスアルファの事業の費用が入っております。直接的な講座運営以外の講演会費用や報告会の冊子作成等の事業もあり、このような差額が生じております。

猿田会長

ありがとうございます。そのほかご質問あるいはご意見是非お願いしたいと思います。

岡村委員

評価を出す場合、取組で評価を行ってしまうと、「やれば良い」というようなことになってしまうので、その内容をきちんと評価していくことが今後ますます大切になると思います。内容を評価することにより、実施してきた講座等が本当に適切だったかどうかをきちんと評価出来るのではないかと思います。先ほど予算の話が出ましたが、後期高齢化社会の中、今後もこの予算をこれだけ確保出来るかが不透明ですよ。今朝の新聞でも読んだのですが、今生まれた子供たちが老人になったときの平均寿命が100歳という数字が出ていました。今生まれた子供たちが100歳まで生きるということは、80、90まで元気に生きている世界が出来てしまうということですよ。そう思うと、内容の評価をきっちり行って、本当に費用対効果がきちんと上がっているかを評価することを継続していかなければならない世界に今後なっていくと思いますので、今回資料を読ませていただいた時に非常に感心しました。難しいところ、高いところに成果指標を持っていってしまうと無謀な挑戦になってしまいますし、届きそうで届かないけどなんとか届くよ、というところで成果指標を作っていただければと思います。

猿田会長

ありがとうございます。目標のことについて、あまりにも遠すぎる目標にならないよう、少し頑張れば達成できるところで設定していただきたいということですね。これも単年度で積み上げていく中で、大体こんなところかなと見えてくると思いますので、その辺も色々情報を蓄えていただくことが大事なのかなという風に思った次第です。

青島委員

今も色々な講座が開催されていると思いますが、講座にも初級、中級、上級とあると思いますけれども、市では講座をどの範囲まで行うかを教えてください。

事務局(課長)

恐れ入りますが、今話をされた講座とは推進大綱に載っている講座の話でしょうか、それとも、当課が実施している人材養成講座のことでしょうか。色々な講座を実施しておりますので、どの辺の講座を指されているかを教えてください。

青島委員

私は将棋を教えているのですが、市の方からシニアの初心者教室をやってくださいということで、3～6ヶ月間教えていました。その卒業生の半数以上の方から中級以上を行っ

て欲しいという話を多く聞きます。ただ、市からは広く多くの人に学んで欲しいということで初級者向けしか出来ないと間接的に話を聞きました。市としてはどのように考えているかを出来れば教えていただきたいです。

事務局(課長)

今、お話しいただいたのはおそらく市の生涯学習施設で行っている各種講座のことだと思います。生涯学習につきましては、葵区駿河区の各生涯学習センターと清水区の各生涯学習交流館とは、それぞれ別の指定管理者に委ねて事業を行っていただいております。初級の方が次に中級に、そして更に上級にというご希望があるのであれば、事業実施の主体はそれぞれの指定管理者となりますので、皆さま利用者からも声を上げていただき、私どもからも市民の皆様からの希望がある旨を伝えまして、講座の充実を図っていきたくと考えております。

事務局(局長)

講座にも大きな段階というものがあり、ご自分の趣味を活かしつつ、内容の質を高めていくというものがあると思うのですが、他の環境問題や社会的な問題に関する講座では、自分で習得して、それらを地域に還元していくという内容の講座もございます。いわゆる人材育成、人材養成というものです。人材養成塾では、20～40歳の若い市民を対象に社会事業家養成コースとして、自分がやりたいことではなく、社会が求めているものを勉強しましょうということで行っています。また、地域リーダー養成コースは40歳から60歳までを対象としており、地域リーダーになっていく人を育てていきたいと思いますということを目的にしており、講座の中身、目的も少し違うのかなと思います。そういった中で、生涯学習施設においては、1,200近い講座を実施しておりますけれども、その中でも目的が違うものが出てくるのではないかなと思います。しかし、私どもとしましても、自分が修得したものを地域に還元し活かしてもらいたい、または、そういう人たちを増やしていきたいと考えており、生涯学習推進大綱の中でも、25年度時点で11%だった地域の役割に立ちたいと思う方々の現在値を20%に増やしていこうといった目標を持っておりますので、指定管理者に向けてもそういう講座を増やし、地域の人材を育てていきたいということも求めていきたいと思っております。

青島委員

初級、中級、上級とありますけれども、私としては、せめて中級ぐらいは多くの方に参加していただきたいと考えております。将棋を通じ、礼儀作法等の習得や青少年育成、ものを大切にする心を学べると思っておりますので、中級ぐらいまでは開催していただけたらと思います。

事務局(局長)

今お話しいただいたような学校教育以外のところ、学校教育ではなかなか教えていただけないところも非常に重要だと思っております。ありがとうございます。

林委員

私は清水区の事業に関わることがかなり多いのですが、清水区にはご不満が多い方が非常に多く、葵区、駿河区、清水区の3区は成り立ちの違いから現在の状況になっていると思いますが、指定管理者の力量に係ることも大いにあるのではないかと思います。自分の地区でない交流館やセンターの利用を希望した場合に、どういう風に評価できるのでしょうか。合併して損したという話を今でも相変わらずよく聞きますし、まだ昔の地域の公民館の活動が良かったという話を聞くたびに、成り立ちの違いがあるので現在の状況はあるけれど、もっと交流ができる事業展開が必要ではないかなと感じます。

猿田会長

ありがとうございます。何かお答えいただける内容があればと思います。

事務局(課長)

今ご指摘がありましたとおり、昔の公民館、現在の生涯学習施設について、旧静岡市と旧清水市では成り立ちが違うのは事実です。これにつきましては、前回の審議会でお話ししましたとおり、ソフトの部分については、専門家の委員の皆さまにお集まりいただきまして、検討委員会の中で一元化を図るべく議論をしているところでございます。施設の整備方針については、配置適正化計画、一般にはアセット計画と言いますが、将来的にどれくらいの施設量が適正か、将来に向けて維持していく量はどの程度か、ということについては、今はまだ市で議論しているところでございます。実際に現場のところでは、やはり合併しており、同じ静岡市民ですので、どこの施設を使って頂いても構わないのですが、一部では色々と言われているような話は聞きます。そういうところは無くすように話を進めていきたいと考えております。

猿田会長

ありがとうございます。計画の評価、進捗管理というところが議題でございますが、鈴木委員の手が挙がっておりましたので、ご発言いただければと思います。

鈴木委員

各課が各事業を素晴らしく一生懸命実施し、また、私たちが以前の審議会に要望したことについても一つ一つ答えていただいているのはよく分かりますし、大変有り難く思っております。しかし、生涯学習教育の原点が別な方向に行ってしまうような気がしま

す。たとえば、センターにいらっしゃる方はほとんど女性の方ですよ。男性の方は65歳で仕事を辞めた後、70～80歳では家に引きこもってしまう人が多い。このような世の中が大変な状態で、生涯学習というのは本当に大切だと感じているので、生涯学習の原点は何かということを中心に考えていただきたいと思います。

猿田会長

ありがとうございます。様々な現代的、地域的課題がある中で、この生涯学習に静岡市が市役所を挙げて取り組むということですので、本日はそれが何によって評価するかという議論をしているわけですが、やはりその一つ一つが指標によるものだという事ですので、それをどういうものにすれば、鈴木委員が仰っているような原点により近づいていくか考えていくというのは、非常に大事な事だと思います。ですので、この進捗管理をどのようにしていくかが、静岡市の生涯学習をより良い方向に持っていくということになると思いますので、おそらく本日決めて終わるという話ではないかとも思います。継続的に市民の目でチェックしていくことが大事なのかなと改めて思った次第です。

まだ色々ご意見もあろうかと思いますが、他の報告事項がございますので、その折にご意見、ご発言いただきたいと思います。各委員から出されていますご意見については、概ね、改善及び変更を検討していただけるのかなと思います。その上で、先ほどの他の部局が実施するものはどれくらいかということと、生涯学習推進課が行う事業は誰がどのように評価していくかについて、疑問をもったのでお教えいただければありがたいと思います

事務局

所管の数については、一つの事業を複数課で行うものもありますので、この場では正確な数は出せませんが、概ね30程度に対象課としてお願いすることになります。

もう一点の生涯学習推進課自体の事業につきましては、事務事業総点検表等の他の評価の指標もありますので、そういったところで意見をいただきながら、それらを審議会の方でご意見をいただくという形になると思います。

猿田会長

ありがとうございます。この審議会である程度チェックできるということですね。よく理解できました。

それでは、審議事項の第1号議案につきましては、このような形で進めていただくということで、生涯学習審議会では了承したいと思いますがいかがでしょうか。

各委員

結構です。

猿田会長

ありがとうございます。それでは、そのような形で今後進めていただければと思います。ありがとうございました。

事務局

<報告事項第1号について事務局より説明>

猿田会長

ありがとうございました。ただいま結果の一端をお示していただいたということではありますが、この時点で前回調査よりも数字がかなり伸びているところがあるということでした。どう解釈すれば良いかについては、今後も検討していく必要があるとは思いますが、その辺りの分析等、ご示唆のようなこともあれば、ご意見をいただきたいと思っております。

森委員

平成25年度に比べて28年度はアップしたということですが、まだ分析は出来ていないということですが、その要因の一つに高齢者数が増えたことが挙げられるのかなと思っております。

私が審議会に公募させていただいた背景の一つには、現在、科学館や生涯学習センターでボランティアとして関わっているからなのですが、施設へ来ない人こそが本当の意味でも生涯学習の対象ではないかなと思っております。そういう意味では生涯学習推進課が行っている人材養成塾は凄く大事だと思います。人材を養成し、その方たちが地域に出ていくというのが、静岡全体、国全体の元気に繋がるのではないのかなと感じております。ですので、アンケート結果の中で、生涯学習をしたことがある人は良いとして、したいと思うけどしたことが無い人やしたいと思わなかった人たちの掘り起こしのために、皆さまには知恵を出していただきたいと思っております。

それからアンケートは無作為にということですが、それはどういった方法で無作為なのかをお聞きしたいです。

また、私は応募させていただきまして一市民としてここに来させていただきましたが、それまでは色々な希望を持っていても、市に対して言える時間や機会もなかったのもう少し市民の意見を気軽に出来る場が欲しいと感じております。

最後になりますが、先ほどの評価のところについてですが、私たちが講座を終わった際に必ずアンケートを書いているのですが、それがどのように使われているかがいつも気になっております。これは指定管理者への話になるのかもしれませんが、事業をどのように決めているか、市民の声をどのように拾っているのか教えていただきたいです。

事務局

それでは、はじめにアンケートの3,000人の抽出をどのように行ったかということですが、こちらは市の住民基本台帳を基にしております。コンピュータでデータが管理されており、そこから無作為抽出をかけておりますが、年代やお住まいの区等に偏りが生じないように既にプログラムされております。今回は年齢が18歳以上、不特定多数ということで、万遍なく抽出をかけております。

次にアンケートがどのように活かされているかという話がありましたが、各施設の事業については主に指定管理者が行っております。当課からもアンケートをきちんと取ってくださいというお願いをしているところでございます。その利用方法につきましては、次回の講座にどう活かしていくかが目的で、今回の講座の満足度、理解度を聞くことによって今後の講座に活かす材料としたり、評価の指標としたりしております。特に理解度については、講座の成果と直結するところでありますので、そういったところでアンケートは利用しております。

事務局(課長)

アンケートにつきましては、講座の受講終了だけでなく、各施設でも随時受けており、毎月あるいは半期ごとの報告書の中でも、指定管理者から市の方に報告をしています。その他、市役所の各場所には、投書箱、目安箱のような市民の声を投書する箱がいくつか置いております。他にも方法としては、インターネットにて市民の皆さまからの投書を受け付けまして、それぞれの内容によって関係課に送られてくることもあります。たとえば、私どもで言いますと、広報課経由で、施設の進捗がどうなっているかという質問もあれば、講座の競争率が高いので、実施回数を増やして欲しいという声をいただいたこともあります。市が直接いただいた内容は、指定管理者にもきちんと伝え、対応出来るものについては、指定管理者にも対応をお願いしております。ご要望の中では、講座の他に施設の改修に関する要望もあります。

猿田会長

ありがとうございます。参加者からの希望が色々出されることと思いますが、生涯学習というのは非常に幅が広いですね。マスコミが実施する全国的なアンケートの中でも、「学びたいものがこの中にありますか。あればいくらかでも書いてください」という調査を行うことがあり、その時に全部で300項目ぐらいあります。それを調べていくと0.何%という項目もあります。それがその人にとっては非常に大事な学びたい内容ということになれば、アンケート等にも書くのでしょうかけれど、必ずしもそのすべてに対応出来ないというのがあるのではないかなとも思います。ですから、事業の組み立て方は、施設ごとあるいは指定管理者ごとにあるのでしょうかけれども、やはり何年か続けているものがベースになってくるとも思いますが、そればかりでは代わり映えしなくて、意見が反映されないとい

いう印象を与えてしまうと思いますので、少しでも新規な講座を開いていくべきだと思います。そのためには、学習者の方たちに意見を言えるような場を施設ごとに作ってもらい、その人たちに「来年取り組みたいものを皆さんで企画してください」とお願いするようなやり方もあるわけです。ニーズの汲み上げ方というのは、色々あると思いますので、指定管理者の方々も勉強していることだとも思いますし、今後、色々な形で市民の方の学習率が一人でも高まるよう努力していただきたいと思います。探せばとても良い講座をセンターや交流館で実施しているにも関わらず、自分には関係がないという先入観を持ってしまうのも不幸なことなので、これからも色々な情報を上手に活用して改善していくことが非常に重要なことかなと思います。

このアンケートについては、他にいかがでしょうか。

林委員

設問項目のところで、フリーアンサーの設問を設けられたかどうか伺いたいです。

事務局

はい、その他のご意見として設けております。

渋江委員

アンケートについて、速報値を示していただきましてありがとうございました。

気になりましたところが一つありまして、資料2-2のⅡ、各施策の成果指標の1の結果についてですが、したことがあると答えた人の割合が25年度と28年度を比較すると確かに4%アップしているのですが、したいと思わなかった方の割合も25年度から28年にかけて増えています。「だれでも気軽に学び合える環境づくり」の成果指標として、行った人の成果を載せているわけですが、成果指標と直接は結びつかない「したいと思わなかった人」の割合も増えているので、ここの部分の成果指標自体をどう考えるのか、または成果としてどう捉えるかが、このアンケート結果から解釈するのは難しいのかなと思いました。

事務局

はい、ありがとうございます。ご指摘いただいたように「したいと思わなかった人」の割合も7%近く増えております。成果指標としては、大綱には3つを設けておりますが、その点も注視していかなければいけないと思っております。今後どのようにしていくかについては、皆さまからお知恵を拝借して考えていきたいと思っております。

もう一点アンケートについてですが、今回のアンケートは生涯学習について単独で実施出来たアンケートとなっております。前回25年度に実施したアンケートは、予算の関係もあり、スポーツ関係の施設と一緒にっております。ですから、前回とは全く同じ方法で

アンケート取っていない部分もありますので、前回と微妙な誤差が生じる可能性があるのかなという感じはあります。

猿田会長

ありがとうございます。無回答の率が下がっているということで、その意味では、設問にしっかりと答えていただいているものだと捉えることが出来ようかと思います。その一方で、実はこの30%という数字はすごく低い。内閣府が行っている調査ですと、45%から58%ぐらいになっていた年もあります。その中で、前回の審議会で答申の中に盛り込んだことの一つに、「静岡市民は生涯学習というものについて、まだご理解いただけていないのではないか」というのもございました。そういった意味では、無回答率が減っているということで前進しているのかなと思う反面、したいと思わなかったというご指摘もそのとおりかなと思うところがございますので、順調に推移しているというご説明も確かにそのとおりですけれども、30年度の間の中のところに向けてより詳細な分析をしていくことも大切なのかなと思いました。

また、私は季節的なところも影響しているのかなとも思ひまして、25年度は夏に行われたものと記憶しておりますので、11月に行った今回とは少し変わってくるのではないかなという気がします。季節的なものも次回は揃えた方が良いのではないかなとも思います。

小塩委員

私自身も生涯学習センターで色々な講座を受けさせていただきましたが、その中には自分が思っていたものと少し違ったものもありまして、かなり失望したことがあります。そういう人は、こういうアンケートを見たくないという人もいるとも思います。1回講座に出て、失望したという人もかなり居ると思うのですが、そういう時に「どんなことをやりたいのですか」と書くところがあります。また、私は今も生涯学習センターを利用しており、幾つかの講座を受けているのですが、受け身的な講座がほとんどですね。また、アンケートを書いてもその反応がほとんどありません。インターネットでも市に対して意見や要望を出すのですが、大体反応が無い。

その一方で、今受けている講座の一つに『郷土史大学』というのがありますけれど、この講座は私にとって非常に理想的ですね。ただ講義してもうらのではなく、「あなたはこの郷土史についてやりたいことがありますか。あったらテーマを出してください」「それをサポートいたします」という形の講座です。私もこの講座に出て半年を過ぎましたが、その中で現地調査等を行うこともありました。そういったサポートをセンターでやっていただいたので、私自身は本当に良い講座に恵まれたと感心しました。同じ講座に参加した方からも意見を伺いますと、「こういう生涯学習はやりがいがあるな」という意見が多かったものですので、アンケートの中から感じ取れるのであれば、そういった講座を増やしていただきたいですし、もしそれがアンケートで伝わらないのであれば、伝えていただきたい

なと思います。

菊川委員

静岡市が目標としている社会貢献や社会還元のように、私も仕事をそちらに活かしたいという思いはあって、アイセルの女性カレッジに申し込みをしました。ただ、仕事をしていますと時間もなく、また、仕事が結びつかないところがあると思うと足踏みしてしまいます。話が少し逸れてしまいますけれど、若い人は特に子育て等で忙しく、ボランティア的なことだけだと参加される方も増えないと思うので、何か仕事としてステップを踏めるような形にしていただけたら良いなと思います。

猿田会長

ありがとうございます。したいと思うが出来なかったということですね。学習阻害要因と言ったりもしますが、時間というのが一番大きな要素ですよ。その辺をワークライフバランス的なことと組み合わせながら、施設の方にも研究していただいて、より多くの方が参加できるような条件を見つけていただくことが大切かなと思いました。

志田委員

成果指標のところでは数字を出していくのは非常に大事なことだと思いますけれども、前回の市民意識調査の設問項目と今回は全く同じ形でやられたということによろしいでしょうか。

事務局

問1から3までのアンケートの設問項目は前回と全く同じです。問4以降の項目については、全然違うものが入っております。

また、前回は生涯学習とスポーツ関係のアンケートをあわせてアンケートを実施しましたので、今回の項目数より多かったのかなと思います。また、前回の回収率が41%ほどだったものが、今回は48%と上がっている部分もありますので、そういった違いも影響しているのではないかと考えます。

志田委員

今回成果指標として挙げられている数字というのは、前回と同じ設問から比較対比して出したということによろしいでしょうか。

事務局

はい。

猿田会長

ありがとうございました。まだまだご意見等はあるかと思えます。今日の値は速報値ということで、今年度内に結果を出していただければということで、ご理解いただければと思います。もう一つ報告事項がございますので、次に進めさせていただきます。

事務局

<報告事項 第3号について事務局より説明>

猿田会長

ご意見、ご質問がありましたらお願いします。

弓削副会長

「こ・こ・に」につきまして、新規事業が7事業あるということでタイトルが出ましたが、以前に出していただいた推進計画の中でも繰り返されていると思いますが、それぞれの担当課を教えてくださいたいのが一点あります。

それから、推進計画においては、まとめ方が折角あるようですので、分かりやすくこちらでも反映されると良いなという風に思います。今のままでは、関係性があまり良く分からないので、全体像が見えてくるようになれば良いなと思います。

事務局(課長)

生活環境コースの消費生活地域サポーター養成講座は市民局生活安心安全課となります。次に観光・歴史コースの2つの講座につきましては、どちらも観光交流課となります。それから、健康・保健コースの2つの新事業の内、最初のアイボランティア養成講座は障害者福祉課、その下の(仮称)こころのバリアフリー・プロモーター養成講座は、心の健康センターです。最後に子ども・教育コースについては、上のひきこもりサポーター養成は青少年育成課、下の(仮称)学校・家庭・地域コーディネーター人材養成基礎講座が教育総務課となります。

弓削副会長

はい。ありがとうございました。関係課との話し合い機会があると思いますが、コーディネーター、コーディネーターと重なる部分もあると思いますので、情報交換を大切にし、横繋ぎの強化をしていただきたいと思います。

猿田会長

その他どうでしょうか。

林委員

127 事業の進捗管理ということで、生涯学習推進課にとって大変なお仕事になると思いますけれど、プランに沿って、事業内容をしっかりと見ていただくことを是非お願いしたいと思います。

猿田会長

ありがとうございます。その他全体を通じて他に何かありますでしょうか。

森委員

私たちはアンケートの速報値以外の集計値をどこで見ればいいのでしょうか。

事務局

アンケートは公表する予定であります。2月末で集計作業が全て終わり、その後の手続きがありますので、いつという時期はまだ決まっておりません。委員の皆さまには多大なご協力をしていただきましたので、ご報告できるようにしていきたいと考えております。公開方法としましては、広報ではなくHPを予定しております。

猿田会長

ありがとうございます。それではお約束の時間となりますので、まだまだご意見あるかとも思いますが、この辺りで審議会を締めさせていただきたいと思います。2年間ということで、こういう形でご一緒させていただきまして本当にありがとうございました。審議会というものは、市長から受けた諮問事項に対して、答申を行うということが本来の意義だとも思いますので、この2年につきましては、前期2年の審議会で作された答申に基づいて作成された大綱について、市民の目でどうチェックしていくかが、主要なテーマであったかなと思います。今日、そのとりあえずの形を確認することが出来ましたので、これは今期の成果の一つであろうかなと思います。市の方には全て前向けに受け止めていただいて、形にさせていただきましたので、これで確定ということではなく、これからより良い評価の在り方を求めて、市民に分かりやすく、生涯学習というものをもっと普及させていただくことが大切かなと考えております。

2年間本当にありがとうございました。これで今年度第2回の生涯学習審議会を終了したいと思います。ご協力ありがとうございました。